

令和3年社会生活基本調査の調査事項の検討について（案）

検討の視点	検討する調査事項及び検討内容			新旧対照表 (資料4-2)	
I 慢性的な健康問題による日常生活への支障の状況把握	1	追加	【調査票A・B】 慢性的な健康問題 日常生活における支障の程度	「公的統計の整備に関する基本的な計画」(令和2年6月2日閣議決定)において障害者統計の充実が求められており、欧州統計局の設問を参考に追加	1頁
II 高齢社会における「介護」の詳細な状況把握	2	変更	【調査票A・B】 ふだん世帯員以外の人から介護の手助けを受けていますか	世帯主が自分の世帯について回答する調査事項「ふだん世帯員以外の人から介護の手助けを受けていますか」を、各世帯員が回答する個人属性項目に変更し、「介護」の詳細な状況を把握	2頁
III スマートフォン等の情報通信機器の日常生活への密着性を把握	3	変更	【調査票A】 スマートフォン・パソコンなどの使用について	3時間ごとの使用状況を回答する調査事項「スマートフォン・パソコンなどの使用について」を廃止し、15分単位の生活状況を回答する調査事項「生活時間について」において、「スマートフォン・パソコンなどの使用」を追加し、スマートフォン等の日常生活への密着性を把握	3、4頁
	4	変更	【調査票B】 生活時間について	「スマートフォン・パソコンなどの使用」を「スマートフォンなどの使用」と「パソコンの使用」に分割し、分析データとしての有用性を向上	5頁
IV 結果利用における有用性の向上	5	変更	【調査票A】 学習・自己啓発・訓練について 「(3) どのような方法でしたか」	選択肢「その他」の回答割合が50%に及んでいる状況などに鑑み、選択肢の見直しを行うことで、分析データとしての有用性を向上	6頁
	6	変更	【調査票A】 スポーツ、趣味・娯楽について	平成28年調査における固定種目と「その他」欄に記入された種目の行動者率を比較し、固定種目の見直しなどを行うことで、分析データとしての有用性を向上	7～9頁
	7	変更	【調査票A・B】 生活時間について 「(1) この日は 次のいずれの日でしたか」	テレワークの普及に伴い、選択肢「在宅勤務」を「テレワーク」に変更し、分岐として「在宅勤務」と「それ以外」を設け、把握の対象を拡大することで、分析に資する有用性の高いデータを取集	10頁

V 報告者負担軽減 のための調査事 項の廃止	8	廃止	【調査票A・B】 生活時間について 「(2) この日の天気はどうでしたか」	政策上のニーズや直近5年間において白書等で利用されている実績がなく、天気情報等から情報の補完が可能なため廃止	11頁
	9	廃止	【調査票A・B】 住居の種類	「住居の種類」の違いによる生活時間の使い方について、傾向的な違いが見られず、また、政策上のニーズや直近5年間において白書等で利用されている実績もないため廃止	12頁
	10	廃止	【調査票A・B】 自家用車の有無	「自家用車の有無」の違いによる生活時間の使い方について、傾向的な違いが見られず、また、政策上のニーズや直近5年間において白書等で利用されている実績もないため廃止	12頁